二〇二四年一月一三日

居留地のガス灯烟る枯木道　わかば
寺田屋の門の一歩に白椿　うつぎ
冬晴や湯屋の煙突残る街　うつぎ
鞠のごと跳ねて日向へ寒雀　かえる
水郷の水の揺らぎや春隣　たか子
庇影濃き方丈の白障子　ぽんこ
絵馬掛所ガッツポーズに花八つ手　なつき
そぞろ歩の疎水の道は四温晴　せいじ
人力車花のごとくに春着の娘　澄子
吹初の尺八に添ふ朱唇かな　むべ
羽子つきの乾きし音や空まさを　むべ
寒風や湖の鳥居へ縮れ波　隆松
甑布干す酒蔵の庭小春　せいじ
伊達門の寒禽騒ぐ高みかな　かえる
讃美歌を爪弾く箏や明の春　むべ

新地湯は令和の今も路地ぬくし　うつぎ
酒蔵を映す運河に風光る　あひる
弾痕に触るれば寒し太柱　たか子
出格子の伏見古町踏青す　よう子
彼彼女並んで結ひし初みくじ　なつき
坂がかる大路や俥夫の息白し　康子
霜の朝棚田は縞のモノクロに　素秀

定例WEB句会みのる選

二〇二四年一月一三日